

# カタチのない建築

指導教員 吉松秀樹教授 印

0BEB3213 小幡 泰章

## 1. 建築に必要な形

建築には形があることを前提として考えられている (Fig.1)。しかし形を削ぎ落としたときに生まれる空間に、カタチのなさを感じ興味を持った。



Fig.1 何気ない建築の要素

## 2. カタチのない建築

カタチのない建築は機能から考えず、行為を空間化することによってできる建築とする (fig.2)。

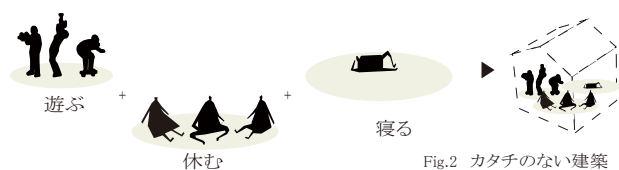


Fig.2 カタチのない建築

## 3. カタチのない建築の利点

本棚を置いたところに読書をする人がいたり、机を置いたところに休んでる人がいたり、居場所を自分で選ぶ空間が生まれ無駄なことがそぎ落とされた空間になる。

## 4. カタチのない要素

壁をランダムに配置することで生まれる場は外形の拘束がなく領域の際限がなくなる。その結果、空間が与えられるがカタチが見えてこない建築となる (Fig.3)。

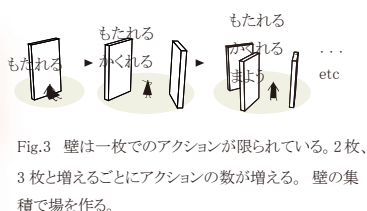
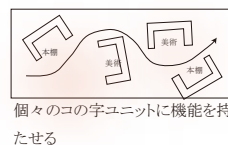


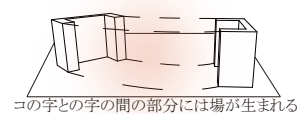
Fig.3 壁は一枚でのアクションが限られている。2枚、3枚と増えるごとにアクションの数が増える。壁の集積で場を作る。

## 5. 居場所の集積による建築の提案

建築に囲まれている形の一部を外部にしてあげることにより、外部を引き込み、内外を曖昧にすることによって、カタチが見えてこない建築となる (Fig.4,5,6,7,8)。



個々のコの字ユニットに機能を持たせる

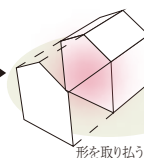


コの字との字の間の部分には場が生まれる

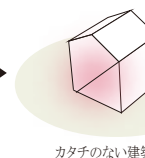
Fig.4 コの字ユニットの配列



形のある建築



形を取り払う



カタチのない建築

Fig.5 コの字ユニットの配列



Fig.6 壁をとることによって、外部を取りこむ。地域の人が入ってきやすくなりあいまいな空間が生まれる。

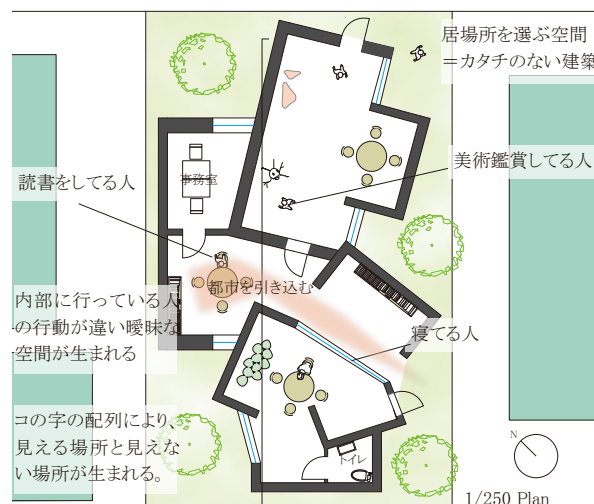


Fig.7 site plan 1/250



Fig.8 section 1/400